

# しんせい

第1号

## 沼エビの話

園長 横田 隆

東北新生園の広報誌の第1号が出版されました。関係者の努力に感謝するとともに、長く続けて行くことを心より希望します。編集部の依頼で、何か巻頭言を・・・とのことでしたので、記念号にふさわしく、「沼エビ」の話をご紹介します。私が園に赴任した平成16年頃には沼エビ捕獲に情熱を傾けたもので、是非皆さんにも知ってほしく、筆を執りました。

沼エビは、園内の池に多く生息しており、大きさ1cm～数cmの小さいエビで、昔は入所者の方々が捕って、食料の一部にしていたと言います。池の周囲を散策していると、水中に跳ねながら動く沼エビを見つけ、何とか捕まえたいという欲求が起こり、罠を考案しました。

罠は写真1のように、ペットボトルを使います。上3分の1を切り取り、ひっくり返して、残りのボトルに差し込みます。開け閉めが出来るように、穴を開けてヒモで縛ります。ボトルの底にエサを入れて、池に沈めて、時間をおいて引き上げる。エサにひかれて沼エビが罠に入ると、出口はペットボトルの外側の口になっているので、狭くて見つけることが出来ないわけで、こうしてエビ以外にも小さな魚も捕らえることが出来ます。当初エサはソーセージを薄く切ったものを使用していましたが、最近は金魚のエサで十分ということがわかりました。出来れば沈むタイプの金魚のエサが適しています。さらに注意点は、獲物が入っているボトルの水が濁り、罠を長期間、池の中に置いておくと、エビたちが弱るので、ボトルの本体には無数の小さな穴を開けておく必要があります。これも経験して判明したことで、技術の改革につながっています。

朝早く罠をしかけ、昼休みに引き上げておりましたが、入所者の一人に目撃され、後に廊下で「池にビンを沈めて何をしていたのか…？」と問われ、とっさに、「池の水質検査を少々…」とごまかしたものでした。出来れば人に見られないようにしてやった方がよいでしょう。

このようにして捕獲した沼エビと小魚は、第2メープルケアセンターのスタッフステーションにある水槽で大事に飼われております（写真2）。入所者の方々が鑑賞して、楽しんでいただいております。沼エビは、ピョンピョン跳ねながら遊泳するので、水槽の上が開いているため、時々、（写真1）脱走します。水がないと生きることが出来ないのも、外ではひからびた状態で発見されます。大変に悲しい思いをしますので、職員にはどうか、沼エビたちが快適な水槽生活を送れるように、心を配っていただきますよう、お願いする次第です。



（写真2）



|    |                                               |
|----|-----------------------------------------------|
| 目次 | 沼エビの話・・・・・・・・・・・・・・・・園長 横田 隆                  |
|    | 病院機能評価の認定を受けました・・・・・・・・病院機能評価リーダー会議           |
|    | NST稼働施設として認定されました・・・・・・・・栄養サポート委員会            |
|    | 第66回国立病院総合医学会ベストポスター賞を受賞して・・・・・・・・准看護師 大内 美代子 |
|    | 功績のあった職員を表彰・・・・・・・・顕彰委員会                      |
|    | 免疫力について・・・・・・・・薬剤師 森田 睦子                      |
|    | クリスマスイルミネーション・・・・・・・・医療社会事業専門員 瀬川 将広          |

**理 念**  
入所者の人権を尊重し、  
安心で安全な生活を提供します

- 基 本 方 針**
1. 快適な療養・生活環境を提供します
  2. 安心して信頼される医療の充実に努めます
  3. やさしい看護と介護を提供します
  4. ハンセン病の正しい知識の啓発普及に努めます
  5. 職員の教育・研修に努めます

**入所者の権利**  
当園では、園の理念に基づき、入所者のみなさまの

- 人格を尊重される権利
- 良質な医療を受ける権利
- 十分な説明と情報を受ける権利
- 自己決定の権利
- プライバシーが保護される権利

を尊重します。



## 病院機能評価（ver.6.0）の認定を受けました。

### 病院機能評価リーダー会議

平成24年9月18日、19日の2日間にわたり公益財団法人日本医療機能評価機構の訪問審査を受審し、同年11月12日には中間結果が出され「2以下の項目がない」との結果を受け、同年12月7日付けで認定証の交付を受けました。

平成22年7月に病院機能評価を受審すると宣言し、各領域毎にリーダー、担当委員を任命、病院機能評価リーダー会議を月1回開催して、各種マニュアル、業務手順書、各種規程等の見直し等を図りながら準備を進めてまいりました。

病院機能評価を受審する機会を得たことは、職員一人ひとりが現在行っている業務が、どのような意味を持つものなのか、何故必要なのか、どのようにすべきかなど日頃業務をこなすことだけに偏りがちな意識を根本から考え直す良い機会となり、より積極性が生まれ良い刺激となったことは、園内全体を活性化させるためにも、より有効な手段であったものと思われまます。

今後は、病院機能評価の認定を受けていることの自覚・気概を持ち、入所者の皆さまが安心・安全に療養生活ができるよう質の高い医療・介護等

を目指して、引き続き業務の改善・見直しを行いながらモチベーションを維持していくことが重要であると考えております。

（文責 事務長補佐 齋藤 浩）



## 栄養サポート（NST）稼働施設として認定されました。

### 栄養サポート委員会

当園では平成23年3月から栄養サポートチームを立ち上げ、入所者の方々の栄養管理を行っています。

この度、有志の方々のご協力と園長先生をはじめとする管理部門のご理解と支援をいただいた結果、平成24年3月に当園は全国の国立ハンセン病療養所でも初めて、日本静脈経腸栄養学会の第8回栄養サポートチーム（NST）稼働認定施設として認められました。

ある統計では、入院患者の3割から4割に栄養不良がみられると言われています。栄養状態が悪い状態（低栄養）になると、体の抵抗力が落ち、病気の回復を遅らせたり（治癒の遅延）、合併症の発症が起こったりと、患者さんの生活の質を著しく低下させる恐れがあります。

栄養サポートチームは、そういった低栄養状態にある入所者の方を早期発見し、栄養状態を改善するために、医師、看護師、薬剤師、臨床検査技師、栄養士、理学・作業療法士、言語聴覚士などがチームとなって栄養状態の改善に取り組んでいます。

これからも入所者の皆さまの健康を維持できるように、様々な職種の職員が共同してチーム医療・チーム介助のお手伝いをしていきます。

（文責 臨床検査技師 佐藤 恵美子）





## 第66回 国立病院総合医学会ベストポスター賞を受賞して

山鳩センター 准看護師 大内 美代子

私が、昨年国立病院総合医学会に参加して、発表し、ベストポスター賞をいただくとは思っていませんでしたので、受賞した時はびっくりしたと同時に、ものすごく感激しました。今でも信じられませんが、あの時の感動は、一生忘れられない思い出となりました。今思えば、ここまでには色々波乱万丈なことがありました。

平成23年度に褥瘡対策委員会が立ち上がり、メンバーになりました。当時受け持ちだった入所者が、20年にわたり仙骨部に褥瘡を繰り返していたので、園外の褥瘡対策研修に参加し、得た知識をスタッフと共に実践しようと考えたことが、ケーススタディのきっかけになりました。原稿を書いては直しの連続で、ようやく完成し、いざプリント！

しかし、完成原稿を保存していなかったのです。いかにパソコンを使いこなしていないかがわかり、情けなくなりました。再度、原稿を入力し直し、ケーススタディの発表を無事終えることができました。

ほっとしていたら学会で発表せよと言われ、まさかケーススタディが学会発表の題材になるとは思っていませんでした。今度は、学会の発表ポスター作成に日々を費やしました。そして、模擬発表の時はものすごく緊張して、心臓がバクバクとしていたのを覚えています。その時も、「文章は短く」、「グラフは簡潔に」などのアドバイスをいただきました。今度はUSBメモリが破損してしま

い、データが消えてしまったのです。消えた瞬間どうしようかと、ものすごくショックでした。しかし、訂正前のデータを看護師長と共同研究者が保存してあったので救われました。

私は、2回もデータが消えたので本当に発表できるのかと不安になりましたが、ポスターも出来上がり神戸に出発しました。発表前日に会場を見学したせいか、発表時は緊張しましたが、心臓のバクバクはなく、3分以内に終わることができ、ほっとしました。

今回、園長はじめ各看護師長、山鳩センターのスタッフにご指導とご協力をいただいたおかげで、座長から、「褥瘡が治癒するまでの経過及び着目する視点が述べられ図表がわかりやすい」と良い評価でベストポスター賞をいただくことができました。私だけの力でなく、素晴らしいスタッフに恵まれたことに感謝いたします。



右側が筆者





## 功績のあった職員を表彰

### 顕彰委員会

当園では、園の運営や入所者サービス等の向上を図ることを目的として平成24年5月に顕彰規程を定め、以下の表彰基準のいずれかに該当する個人及び団体を表彰することとしています。

- ① 職務の内外を問わず、当園において称賛を受け、他の模範となる善行をした者
- ② 当園における事故等を未然に防止し、又は事故等に際しその危険を克服して職務を遂行した者
- ③ 当園の運営に対して多大な貢献を行った者
- ④ 当園における業務の改善等について、多大な効果又は便益をもたらした者
- ⑤ 職員の模範として推奨に値する業績を上げ、又は善行のあった者
- ⑥ 前各号に掲げるもののほか、顕彰に値する者

昨年12月に、この規程に基づいて表彰されましたので、ご紹介します。

- 1 昨年9月に公益財団法人日本医療機能評価機構による病院機能評価を受審し、12月に認定証が交付されました。受審において尽力された各リーダー6名とリーダーのとりまとめと支援を行った2名
- 2 医療事故防止対策において、ヒヤリハットレベル0報告に積極的に取り組んだ2団体（職場）
- 3 昨年11月に開催された第66回国立病院総合医学会のポスターセッションにおいてベストポスター賞を受賞したチーム
- 4 東日本大震災において、災害派遣活動を行っていた自衛隊員に対し炊き出し等の支援を行い、防衛大臣から感謝状を受けた職員有志一同

以上、8人・4団体に対し、12月20日に会議室において、表彰状が園長より授与されました。

受賞された方々におかれましては、おめでとうございます。

また、今後も顕彰基準に該当する職員等に対して積極的に表彰を行っていきますので、皆さんも頑張りましょう。！！

（文責 庶務係長 佐々木 孝男）



病院機能評価認定に尽力した職員



ヒヤリ・ハット報告に貢献した職員



第66回国立病院総合医学会ポスターセッションベストポスター賞受賞者



東日本大震災に際し災害派遣活動に従事した自衛隊員に支援活動を行い防衛大臣より感謝状を贈られた職員有志一同



## 免疫力について

薬剤科 森 田 睦 子

同じ環境にいても、風邪を引きやすい人と、ほとんど風邪を引かない人がいます。この違いを生むのが、免疫力の差です。

免疫力とは、生体の防衛システムで、病気に対する抵抗力のことを言います。抵抗力には病気に罹りにくいだけでなく、病気に罹った場合にそれと戦う力も含まれています。

免疫力が強いと、風邪やインフルエンザ、生活習慣病、がんなどを予防することに繋がります。

免疫力を高めるためには生活習慣が重要です。

### ① 質のよい睡眠をとるようにしましょう。

睡眠の乱れによって免疫力は低下します。よく眠れなくても体を横にして休めているだけで、免疫力は高まると言われています。20分くらいの昼寝でも免疫力は高まります。

### ② 適度な運動をしましょう。

体を温め免疫力を高めるためには、適度な運動が効果的です。ウォーキングなどの軽めの有酸素運動の継続が、免疫力を高めると言われています。

### ③ 笑いましょう。

笑うことも免疫力と繋がっています。笑いは、脳に刺激を与え、NK細胞の働きを活発にし、がん細胞などを攻撃します。作り笑顔の場合でも、NK細胞の働きが活発になるそうです。

### ④ ストレスをためないようにしましょう。

たまったストレスをそのままにしておくと、免疫細胞が減少したり働きが抑えられ、免疫力が低下してしまいます。体を休めたり、趣味や旅行、スポーツ等でストレスを発散させることが大切です。

### ⑤ バランスのよい食事を心掛けましょう。

栄養のバランスがとれた食事を心掛けることにより、免疫力を強化することができ、たとえ病気になったとしても症状は軽くすみ、回復も早まります。

加齢による免疫機能の低下は避けられませんが、日常生活に留意して、病気予防のためにも免疫力を高めましょう。



## クリスマスイルミネーション

医療社会事業専門員 瀬 川 将 広

福祉室とは、ハンセン病療養所ならではの部署です。昔は分館と呼ばれていて、職員に関することをを行う事務「本館」に対して入所者に関する業務を行う部署で事務「分館」と言われていました。

現在は、環境整備や医療相談室的業務等を行っている部署です。

今回は、この冬に園内を鮮やかに彩ったクリスマスイルミネーションについて紹介したいと思います。

12月に宮城県と宮城ハンセン協会からのご招待により「SENDAI 光のページェント見学バス旅行」が実施され、13名の入所者の方が参加しました。夕食の会場は宮城県庁18階の「レストランぴあ」で、食事の際に宮城県村井嘉浩知事がご挨拶に来てくださり、皆さんとても感激しておりました。

ページェント点灯時間に合わせて、県庁を出発しました。見学に行った入所者の方からは「とても綺麗だった」との喜びの声が多数聞かれました。この「SENDAI 光のページェント見学バス旅行」は、十数年前から実施されておりますが、入所者の方々は、高齢なこともあり、多くの方々は、見学に参加することができないことから、クリスマスイルミネーションの雰囲気を楽しんでいただこうと平成23年の12月に園内不自由者棟の中間に位置する第1・第2メープルケアセンター間にイルミネーションを設置することにいたしました。

この冬のクリスマスも新生園内はイルミネーションで彩られました。

今回はイルミネーションの数も増えて、トナカイやサンタも仲間に加わりました。

12月上旬に福祉室職員の手により飾り付けが行われ、ベランダや窓からイルミネーションを眺める方々が多くいました。

「昨年よりも飾り付けが増えたね」

「とても綺麗だね」

イルミネーションを設置した場所は入所者の方が建物の中にも窓から見る事が出来る場所にあります。寒い日が続く中でも就寝前のちょっとした時間でも外を見てクリスマスの雰囲気を楽しんでいただけたなら職員一同こころなかに嬉しいことはありません。





## 職員募集

当園では、次のとおり職員を募集しております。採用を希望する方はお気軽にお問い合わせください。

1. 募集人員
  - ①看護師（正職員） 若干名
  - ②臨時的任用職員（育児休業代替職員） 4名
2. 採用期間
  - ①採用決定の日から（定年制有り） 1名  
平成25年4月1日から（定年制有り） 若干名
  - ②採用決定の日から平成25年 4月28日まで 1名  
〃 平成25年11月 7日まで 1名
3. 応募資格 看護師免許取得者
4. 勤務内容 看護業務（三交代制勤務、早出・遅出有り）
5. 給与等 一般職の給与等に関する法律、人事院規則に定める給与、諸手当を支給いたします。
6. 加入保険等 国家公務員共済年金、共済組合保険に加入
7. 応募方法 市販の履歴書（写真貼付）、看護師免許証（写）を郵送又持参ください。
8. お問い合わせ、応募先

〒989-4692

宮城県登米市迫町新田字上葉ノ木沢1

国立療養所東北新生園 庶務課庶務班長 中嶋

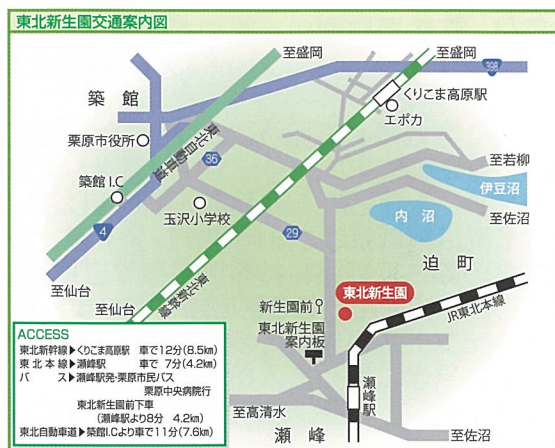
TEL 0228-38-2121 FAX 0228-38-3765

E-mail 2302sy01@sinseien.hosp.go.jp

## 入所者数の推移

| 年度 | 入所者数 |   |   | 退所者数 |    |    |     |    | 平均入所者数 |
|----|------|---|---|------|----|----|-----|----|--------|
|    | 再    | 新 | 計 | 軽快   | 死亡 | 転園 | その他 | 計  |        |
| 14 |      |   | 0 | 2    | 16 |    |     | 18 | 201.3  |
| 15 |      |   | 0 |      | 12 |    |     | 12 | 184.6  |
| 16 |      |   | 0 |      | 10 |    |     | 10 | 173.8  |
| 17 |      |   | 0 |      | 9  |    |     | 9  | 163.9  |
| 18 |      |   | 0 |      | 7  |    |     | 7  | 156.2  |
| 19 |      |   | 0 |      | 7  |    |     | 7  | 148.4  |
| 20 |      |   | 0 |      | 10 |    |     | 10 | 139.9  |
| 21 |      |   | 0 |      | 2  |    |     | 2  | 135.2  |
| 22 |      |   | 0 |      | 10 |    |     | 10 | 129.4  |
| 23 |      |   | 0 |      | 14 |    |     | 14 | 118.0  |
| 24 |      |   | 0 |      | 7  |    |     | 7  | 106.5  |

※平成24年度は、平成24年12月31日現在



発行元 国立療養所東北新生園  
National Sanatorium Tohokushinseien

発行責任者 国立療養所東北新生園  
広報誌編集委員会

〒989-4692  
宮城県登米市迫町新田字上葉ノ木沢1番地  
TEL 0228-38-2121 FAX 0228-38-3765  
URL <http://www.tohoku-shinseien.com/>  
E-mail [admin@sinseien.hosp.go.jp](mailto:admin@sinseien.hosp.go.jp)